(見出し)

「英国安全衛生庁(HSE)は、2020年7月1日(現地時間)に、2019年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)のグレートブリテンにおける労働者 (英国では被雇用者及び自営業者を意味する。以下同じ。)の死亡 (労働) 傷害の速報値を暫定値として公表しました。」

英国安全衛生庁は、2020 年 7 月 1 日 (現地時間) に、2019 年度(2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)のグレートブリテンにおける労働者の死亡労働傷害 (労働災害) の暫定値として公表しました。それによると、2019 年度(2019/20)における労働者の死亡労働傷害の合計の暫定的な数字は、111 人 (HSE が別に公表している詳細な資料 (この資料の所在: www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx)では被雇用者が77 人、自営業者が34 人で、合計111 人)でした。これは、その前年度(2018/19では147 人 (HSE が別に公表している詳細な資料(この資料の所在: www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx)では、被雇用者が106 人及び自営業者が41 人で、合計147 人)よりは36 人減少しています。

このデータの根拠は、英国安全衛生庁の"the Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR)"(訳者注:「傷害、疾病及び危険事象報告規則」)に基づき所管行政庁に報告された死亡傷害のうち、同規則による報告基準に適合するものと判断された死亡 (労働)傷害のみを含んでおり、疾病による死亡及び非鉄道輸送システムにおける死亡事故は、含まれていません(含まれていない死亡労働災害の詳細については、本稿の「附属書 I 情報源及び定義」を参照してください。)

HSE が別に公表している詳細な資料では、2019/20 年度の対応する(①被雇用者及び自営業者の合計、②被雇用者のみ、③自営業者のみ)の 100,000 人当たりの死亡傷害の発生率は、①については 0.34、②については 0.28、③については 0.64 でした。これらのデータは、グレートブリテンにおける死亡傷害の発生数及び発生率が、国際的に見ても依然かなり低い水準であることを示しています。

(訳者注:「グレートブリテン」とは、イングランド、スコットランド及びウェールズの地域の総称であり、北アイルランドは含まない。 以下同じ。)

なお、上記のとおり「これらのデータは、グレートブリテンにおける死亡傷害の発生数及び発生率が、国際的に見ても依然かなり低い水準

であることを示しています。」とされていることとの関連で、本資料の末尾に、この資料の作成者が作成した「参考資料 1 労働災害の発生率に関する日本及びアメリカ合衆国並びに EU 加盟国全体、EU 加盟諸国のうち英国、フランス及びドイツとの比較について」及び「参考資料 2 Eurostat (欧州統計局) による主要国労働災害統計データ 2020 年 7 月 1 日公表 (2013~2018)」を盛り込んであります。

この資料の作成年月 2020年7月 中央労働災害防止協会技術支援部国際課

(作成者注:以下の記述のうち、「イタリック体で表記されているもの」は、作成者が文意を補足するために加えたものです。)

[原資料の題名及び所在]

[Workplace fatal injuries in Great Britain, 2020,

https://www.gov.uk/government/statistics/fatal-injuries-in-the-workplace-in-great-britain-2019-to-2020-year-end-march-annual-release] [著作権について]

HSE が、関連するウェブサイトで公表している資料については、"Open Government Licence for public sector information"にあるとおり、 資料出所を明記する等の一定の条件を満たせば、自由にコピーし、公表し、配布し、及び転送し、情報を加工すること等が許容されています。

Contents [この資料の目次]

英語原文	日本語仮訳(左欄の原典のページ数は、省略した。)	
Contents 目次		
Summary	要約	
Introduction	はじめに	
Fatal injuries to workers 労働者についての死亡傷害		
Headline figures	主要な数字	
Injuries by industry	産業別の傷害	
Injuries by accident kind	事故の性質別の傷害	

Injuries by gender and age	性別及び年齢別の傷害		
Injuries by employment status	雇用形態別の傷害		
Injuries by country within GB	グレートブリテン内の国別及び地域別の傷害		
Injury comparison with other countries	他の国々との比較		
Potential impact of COVID-19 on number of fatal injuries in 2019/20	2019/20における死亡者数に関するCOVID-19 (新型コロナウィルスによる疾病)		
	の潜在的な影響		
Longer term trends	より長期的な傾向		
Fatal injuries to members of the public	(一般)公衆の死亡傷害		
ANNEX 1: Sources and definitions	附属書I 情報源及び定義		

Summary

111

Workers killed in 2019/20 (RIDDOR)

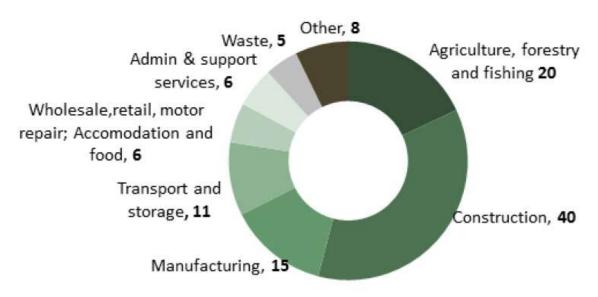
(訳者注:要約)

111 人の労働者 (被雇用者が 77 人及び自営業者が 34 人) が、 2019/20 年度で死亡した。) ((RIDDOR)"「傷害、疾病及び 危険事象報告規則」)に基づく。

[次の円グラフの訳者説明]

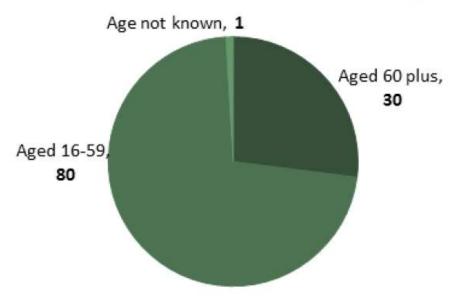
- 2019/20(4月1日から翌年3月31日まで)には、職場で111人の労働災害死亡者*(被雇用者が77人及び自営業者が34人)*があった。
- 主要産業別の死亡傷害者数及び年齢別の死亡傷害者数の内訳

Fatal injuries to workers by main industry



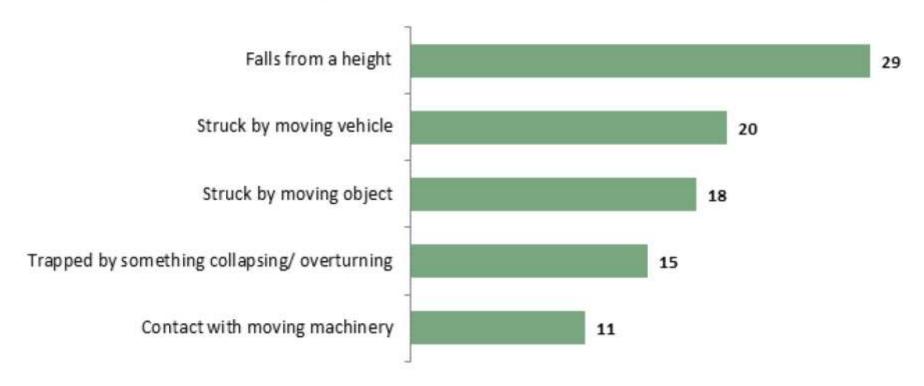
主要産業別の死亡傷害者数の内訳				
英語原文	日本語仮訳	死亡者数		
Construction	建設業	40		
Agriculture, forestry and fishing	農業、林業及び漁業	20		
Manufacturing	製造業	15		
Others	その他	8		
Wholesale, retail, motor repair; Accomodation and food	卸売り、小売業、自動車修理、宿泊及び食品	6		
Admin & support services	公務及び支援業	6		
Waste	廃棄物 <i>(処理)</i> 業	5		

Fatal injuries to workers by age



年齢別の死亡傷害者数の内訳			
英語原文	日本語仮訳	死亡者数	
Age 16-59	年齢 16-59 歳	80	
Age 60 plus	60 歳以上	30	
Age not known	年齢不詳	1	

Main kinds of fatal accident for workers

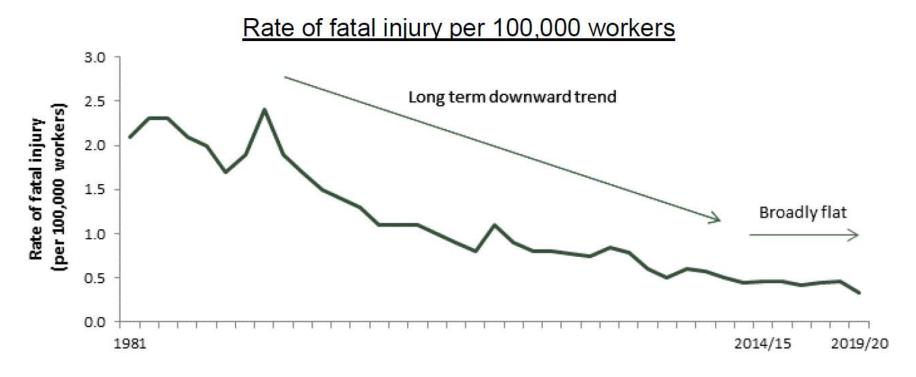


労働者(自営業者を含む。)の死亡労働傷害の主要な原因別内訳](上の棒グラフを参照されたい。)

Main kinds of fatal accident for workers	主要な原因(左欄の日本語仮訳)	死亡者の内訳数
Falls from a height	高所からの墜落	29
Struck by moving vehicle	動いている車両に衝突された	20
Struck by moving object	動いている物体に衝突された	18
Trapped by something collapsing/overturning	崩壊し、転覆した何かの物体に閉じ込められた	15
Contact with moving machinery	動いている機械との接触	11

[労働者 100,000 人当たりの死亡 (労働) 傷害発生率の推移]

1981~2019/20 年度までの労働者 100,000 人当たり(自営業者を含む。)の死亡 (労働) 傷害者数(つまり発生率)は、次の線グラフのとおりである。



Data source RIDDOR: Reporting of Injuries Diseases and Dangerous Occurrences regulations. Figures for 2019/20 are published as provisional at this stage and will be finalised July 2021.

(資料出所: 傷害、疾病及び危険事象報告規則。2019/20の数字は、この段階では暫定的に公表されたものであり、2021年7月に確定される。)

92

Members of the public were killed due to work related activities in 2019/20 (excluding those that died in Local Authority enforced workplaces – typically around 12-16 deaths per year)

(訳者注:上のコメントの説明)

日本語仮訳

2019/20 には、作業関連活動のために 92 人の一般市民が死亡した。(地方自治体が施行している職場を除く。-毎年おおよそ 12 \sim 16 人が死亡している。

(訳者注: Table 1: Fatal injuries to workers (employees and the self-employed) in Great Britain by main industry; 2019/20p, 2018/19r, and total for 2015/16-2019/20p (表 1 主要産業別のグレートブリテンにおける労働者の死亡障害 (被雇用者及び自営業者); 2019/20 暫定、2018/19 及び 2015/16-2019/20 暫定)

● Source: Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR) (資料出所: 傷害、疾病及び危険事象報告規則) からの抜粋)

年(year)	Main Industry SIC 2007	Number of fatal injuries		Rate of fatal injury per 100,000 workers (or employees /			
	(Section)	(傷害死亡の数)		self-employed)			
	(2017 年版の標準産業分類)				(労働者(自営業者を含む。)(又は被雇用者 10 万人当た		
					りの死亡 <i>(労働)</i> 傷害の発生率)		
		Workers	Of which		Workers	Of which(左欄	の内訳)
		(労働者(被雇	(左欄のうち~、)		(労働者(被雇用者		
		用者及び自営			及び自営業者の合		
		業者の合計))			計))		
			Employees	Self	Workers	Employees	Self-employed
			(被雇用者)	-employed	(合計)	(被雇用者)	(自営業者)
				(自営業者)			
2019/20p(暫定)		111	77	34	0.34	0.28	0.64
2018/19r(改訂	All Industries (A-U)(全産業合計)	149	106	43	0.464	0.39	0.83
版)							

英語原文

Introduction

This report provides headline numbers on workplace fatal injuries that were reported to enforcing authorities in 2019/20. It includes both fatal injuries to workers and to members of the public, though numbers of deaths to members of the public do not include those that occurred in Local Authority enforced workplaces for 2019/20. The 2019/20 figures are currently provisional and will be finalised in July 2021 to take account of any necessary adjustments (including accounting for deaths to members of the public in Local Authority enforced workplaces). In tables and chart headings, 2019/20 is marked as 'p' for clarity. Fatal injuries are thankfully rare events. There is a degree of chance and randomness to the annual count resulting in an element of natural variation from one year's count to the next. To allow for this natural variation, alongside figures for 2019/20, this report also presents the annual average estimate for the five years 2015/16·2019/20, which reduces the effect of year-on-year fluctuations and gives a more stable current picture.

The figures make up part of a long running series enabling both short and long-term comparisons of change.

The information includes only those cases of fatal injury that the enforcing authorities have judged as meeting the reporting criteria for workplace injuries as set out in the Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR). Two notable exclusions from these statistics are fatal diseases (including COVID-19) and fatal accidents on non-rail transport systems. (See Annex 1 for more details). Also, as noted above, the count of deaths to members of the public for 2019/20 excludes those that occurred in Local

日本語仮訳

はじめに

この報告書は、2019/20 年度(訳者注:2019 年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで)に所轄執行機関に報告された職場での死亡傷害に関する主要な数を与えるものである。この数字には労働者と一般市民の両方の死亡事故が含まれているが、一般市民の死亡事故には2019/20 年の地方自治体が施行している職場で発生したものは含まれていない。2019/20 年の数値は現在暫定的なものであり、必要な調整を考慮して2021 年 7 月に最終版が作成される予定である(地方自治体が施行した職場での一般市民の死亡者数の算定を含む。)。表及びグラフの見出しでは、わかりやすくするために2019/20 年は「p」と表記されている。

死亡事故は、幸いなことに稀な出来事である。年間の集計にはある程度の偶然性とランダム性があり、その結果、ある年の集計から次の年の集計への自然な変動がある。この自然変動を考慮して、2019/20年の数字とともに、本報告書では2015/16~2019/20年の5年間の年間平均推計値を提示している。

この数字は、変化の短期的・長期的な比較を可能にする長期シリーズの一部を構成している。

この情報には、傷害、疾病及び危険事象報告規則(RIDDOR)に定められた労働災害の報告基準を満たしていると執行当局が判断した死亡事故のみが含まれている。

これらの統計から除外されているのは、死亡性疾患(COVID-19 を含む。)及び非鉄道輸送システム上の死亡事故の 2 つである。詳細は附属書 1 を参照のこと。)。また、上述したように、2019/20 年の一般市民に対する死亡者数は、地方自治体が施行している職場で発生したものを除外している。

Authority enforced workplaces. We have been unable to verify these cases with Local Authorities given the pressures on them arising from the current coronavirus (COVID-19) pandemic (numbers of deaths to workers in 2019/20 are unaffected and include deaths in all settings).

現在のコロナウイルス (COVID-19) の世界的蔓延 (パンデミック) から生じる 地方自治体への圧力を考慮して、これらの事例を地方自治体に確認していない (2019/20 年の労働者の死亡数は影響を受けておらず、すべての状況での死亡数 が含まれている)。

Fatal injuries to workers

Headline figures

A total of 111 workers were killed at work in Great Britain in 2019/20, a decrease of 38 from the previous year and is the lowest annual number on record.

It is difficult to assess what impact the current COVID-19 pandemic has had on the annual number of deaths. Statistics on output of the UK economy show that COVID-19 had a large impact on output of the UK economy in March, but also anecdotal evidence of some small effects in February too.1,2. The number of workers killed at work was also lower in both these months compared to recent years though, in statistical terms, numbers are small and subject to fluctuation.

Excluding deaths in February and March, the number of worker deaths for the first ten months of the year was lower than comparable periods in recent years (99 in 2019/20 compared with 123 in 2018/19 and an annual average of 117 in the previous five-years), though it is possible that the difference can be explained by natural variation in the figures. However looking over the full year, the number of deaths is statistically significantly lower suggesting that COVID-19 has had some impact on reducing numbers further. In statistical terms the number of fatalities has remained broadly level in recent years and the fall seen

労働者に対する死亡傷害

主要な数字

2019/20 年の英国での労働者の職場での死亡者数は合計 111 人で、前年より 38 人減少し、過去最低の年間数となった。

現在の COVID-19 の世界的な蔓延 (パンデミック) が年間死亡者数にどのような影響を与えたかを評価することは難しい。英国経済の生産高に関する統計によると、COVID-19 は 3 月に英国経済の生産高に大きな影響を与えたが、2 月にもいくつかの小さな影響があったという逸話的な証拠がある。

仕事中に死亡した労働者の数も、統計的には少なく、変動しやすいが、両月と も近年に比べて減少している。

2月と3月の死亡者数を除くと、今年の最初の10ヶ月間の労働者死亡者数は、近年の比較可能な期間よりも少なかった(2019/20年は99人、2018/19年は123人、過去5年間の年平均は117人)が、その差は数字の自然な変動によって説明できる可能性がある。

しかし、通年で見ると、死亡者数は統計的に有意に減少しており、COVID-19が さらに数を減らすことに何らかの影響を与えていることを示唆している。統計 的には、死亡者数は近年ほぼ横ばいで推移しており、今年の減少は顕著ではあ るが、職場の本質的な危険性の大きな変化を反映したものではないかもしれな

in the current year, while striking, may not reflect any major shift in the	۷٬۰
inherent dangerousness of workplaces.	

Figure 1: Fatal injuries to workers: GB 2008/09 - 2019/20p

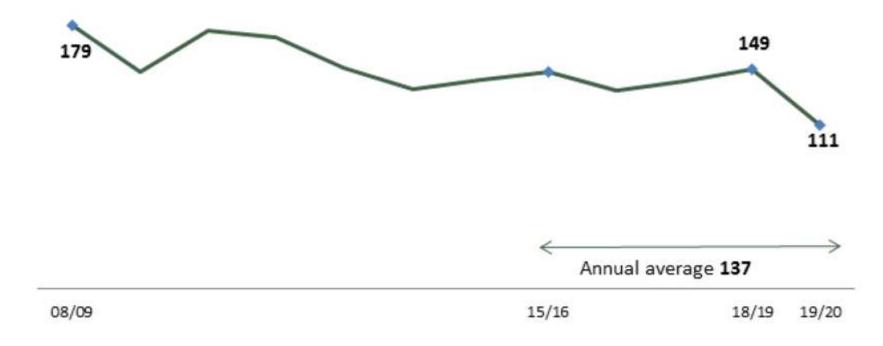


図1 労働者(自営業者を含む。)の死亡傷害:グレートブリテン 2008/09-2019/20 暫定)

(参考資料)

- 1 www.ons.gov.uk/economy/grossdomesticproductgdp/articles/coronavirusandtheimpactonoutputintheukeconomy/march2020
- 2 Office for National Statistics: www.ons.gov.uk/economy/grossdomesticproductgdp/bulletins/gdpmonthlyestimateuk/february2020#related-links

Injuries by industry3

There are two ways of looking at fatality numbers. The first is to look at the absolute count. On this basis, Construction and Agriculture, forestry and fishing tend to come out worst as they account for the greatest number of fatalities each year.

(原典の注(3):2007年の標準的な産業分類による。)

The second approach of looking at fatality numbers is to consider the **fatal injury rate** in terms of the number of fatalities per 100,000 workers employed.

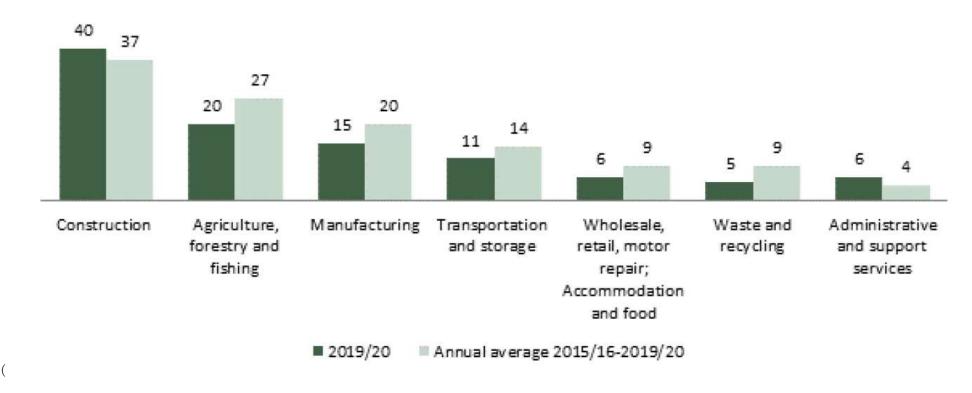
産業別の傷害

死亡傷害の数を見るには二つの方法がある。一つは、総数を数えることである。 この観点では、建設業及び農林水産業が、毎年最も多い死亡傷害の数を数えて いて、最悪の業種である。

死亡者数を見る第2の方法は、雇用された労働者10万人当たりの死亡者数で考えることである。

(参考資料: 3: Industry is defined using the 2007 Standard Industrial Classification. See annex 1 for more details.)

Figure 2: Number of fatal injuries by main industry group, 2019/20p and annual average for 2015/16-2019/20p



(図 2:主要産業グループ別死亡災害件数、2019/20 暫定及び 2015/16~2019/20 暫定の年平均) (訳者注:

- は、2019/20 の死亡者数
- □は、2015/16-2019/20 の間の年平均死亡者数 (以下同じ。)

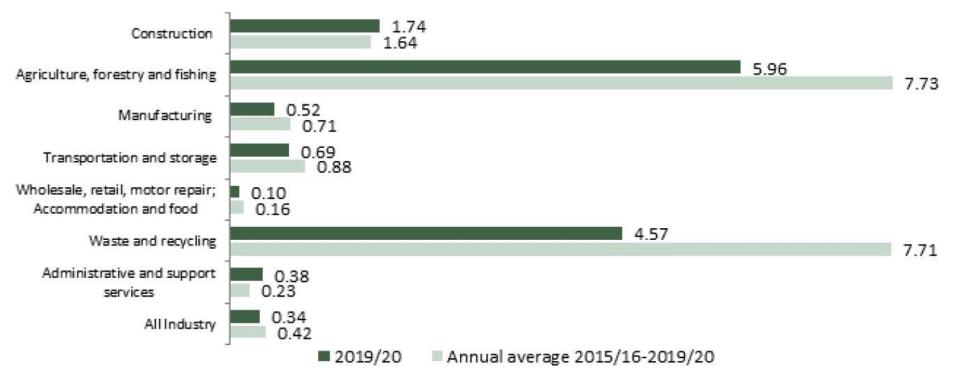
The number of fatal injuries in 2019/20 for many of the main industry sectors is lower than compared with the annual average over the last five years. However, numbers can be prone to year-on-year fluctuations.

- Construction is one of the few industry sectors which saw an increase in the number of fatal injuries to workers in 2019/20, with the number of deaths in 2019/20 (40) above the low of 31 seen in the previous year. However, annual numbers have fluctuated in recent years. Over the last five years, the number of deaths has ranged between 31 and 47, with a 5 year average of 37 deaths per year.
- In Agriculture, forestry and fishing the number of fatal injuries in 2019/20 fell to the lowest level on record (20), though the sector still accounts for around 20% of all worker deaths.
- The number of fatal injuries in manufacturing has fluctuated in recent years, and while the number of deaths in 2019/20 is at the lower end of what has been seen in recent years (15), it is at the same level as in 2017/18.
- Around 10% of all fatal injuries to workers occur in the transportation and storage sector. There was a reduction in number of worker deaths across the sector in 2019/20 compared to the previous year (11 in 2019/20 compared with 16 in 2018/19), though numbers are prone to annual fluctuations.

2019/20年の多くの主要業種の死亡者数は、過去5年間の年平均と比較しても減少している。ただし、数字は前年比で変動しやすい。

- ・建設業は、2019/20年の労働者の死傷者数が増加した数少ない業種の一つであり、2019/20年の死亡者数(40 人)は、前年の低かった 31 人を上回りまわった。しかし、ここ数年は年間の数字が変動している。過去 5 年間の死亡者数は 31 人から 47 人の間で推移しており、5 年平均では年間 37 人となっている。
- ・農林水産業では、2019/20年の死傷者数は過去最低水準(20人)にまで減少したが、この部門は依然として全労働者の死亡者数の約20%を占めている。
- ・製造業の死傷者数は近年変動しており、2019/20年の死亡者数は過去最低の水準にあるが(15)、2017/18年と同水準である。
- ・労働者の死傷者数の約1割は運輸・倉庫業で発生している。数字は毎年変動しやすいが、2019/20年のこの業種全体の労働者死亡者数は前年に比べて減少している(2019/20年は11人、2018/19年は16人)。

Figure 3: Rate of fatal injuries by selected main industry group (per 100,000 workers), 2019/20p and annual average for 2015/16-2019/20p



(図3:選択された主要産業グループ別の死亡災害発生率(労働者10万人当たり)、2019/20暫定及び2015/16~2019/20暫定までの年平均)

(訳者注:第3図の左欄の業種は、次の英語-日本語仮訳のとおりである。)

業種(英語原文)	左欄の日本語仮訳
Construction	建設業

Agriculture, Agriculture, forestry and fishing	農業、林業及び漁業
Manufacturing	製造業
Transportation and storage	運輸及び倉庫業
Wholesale, retail trade, motor vehicle repair; Accommodation and food	卸売り、小売、自動車修理;宿泊及び食品サービス
services	
Waste and recycling	廃棄物(処理)及びリサイクル業
Admin & support services	公務及び支援業
All industry	全産業

Based on the annual average rates for 2015/16-2019/20 (as this reduces the effect of year-on-year fluctuations and gives a more stable picture):

- Agriculture, forestry and fishing and Waste and recycling continue to come out worst, with a rate of fatal injury some 18 times as high as the average across all industries.
- The rate of fatal injury in Construction, while around 4 times as high as the average rate across all industries, is considerably less than the rate in either Agriculture, forestry and fishing or Waste and recycling, despite accounting for a greater number of cases than these sectors.
- The Manufacturing and the Transportation and storage sector have a rate
 of fatal injury around twice the average rate across all industries.
- Although not shown in figure 3 above, the rate of fatal injury in Mining
 and quarrying is around four times as high as the average rate across all
 industries and broadly similar to that seen in Construction, though it
 should be noted that there have been no deaths to workers in the Mining

2015/16~2019/20 の年間平均率に基づくと(この方が前年比の変動の影響が少なく、より安定したイメージが得られるため)、

- ・ 農業、林業、漁業、廃棄物・リサイクルは引き続き最悪で、死亡災害発生率 は全産業の平均の約18倍となっている。
- 建設業の死亡災害発生率は全産業平均の約4倍であるが、農林水産業や廃棄物・リサイクル業に比べて件数が多いにもかかわらず、農林水産業や廃棄物・リサイクル業の死亡災害発生率を大幅に下回っている。
- 製造業、運輸・倉庫業では、全産業平均の約2倍の死亡事故率となっている。
- 上の図3には示していないが、鉱業・採石業の死亡災害率は全産業の平均の 約4倍であり、建設業とほぼ同程度であるが、鉱業・採石業では過去2年間 に労働者の死亡がなかったことに留意すべきである。

and	quarrying	sector in	either	of the	last two	years.

• While the combined 'Wholesale, retail, motor repair; Accommodation and food services' sector accounted for around 7% of fatal injuries between 2015/16 and 2019/20, in terms of rate the overall sector is relatively low risk with an injury rate of around one third the all industry rate. However, there will be variation in risk across activities within the sector.

一方、卸売業、小売業、自動車修理業の合計では、

宿泊業、食品サービス業を合わせた「卸売業、小売業、自動車修理業、宿泊業、食品サービス業」は、「建設業」と同様の傾向を示している。2015/16年から2019/20年の間に、「卸売業、小売業、自動車修理業、宿泊業、飲食業」を合わせた部門が死亡災害の約7%を占めていたが、率の面では、部門全体の災害率は全産業の約3分の1であり、比較的低リスクである。しかし、この産業分野内の活動によってリスクにはばらつきがあるだろう。

For more details of fatal injuries by main industry sector, see Table 1, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx

主な産業分野別の死亡災害の詳細については、表1、

www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx を参照のこと。

Injuries by accident kind

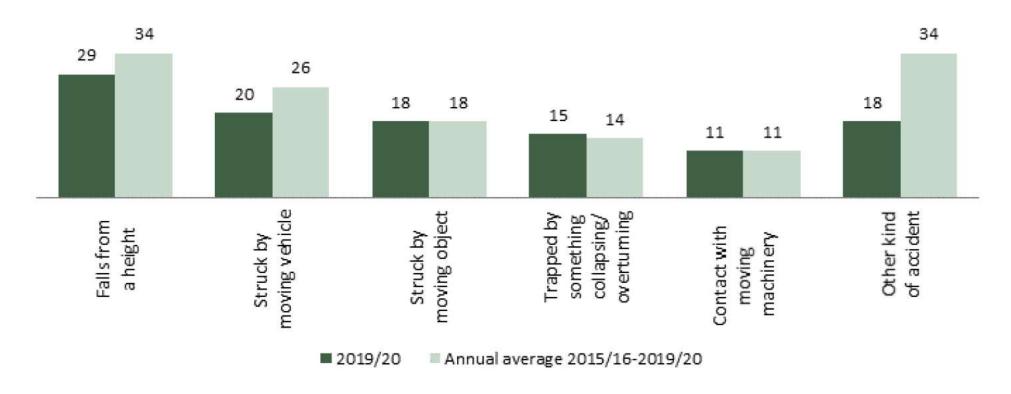
Over three-quarters of fatal injuries in both 2019/20 and the combined five-year period 2015/16-2019/20 were accounted for by just five different accident kinds (see figure 4 below). Falls from a height, being struck by a moving vehicle and being struck by a moving, including flying or falling, object continue as the three main causes of fatal injury, between them accounting for over half of all fatal injuries each year since at least 2001/02.

災害による傷害の種類

2019/20 及び 2015/16~2019/20 の 5 年間を合わせた期間の死亡災害の 4 分の 3 以上が、わずか 5 種類の災害で占められている (下図 4 参照)。

高所からの転落、移動中の車両との衝突、移動中の物体との衝突(飛来及び落下を含む。)は、死亡災害の主な3つの原因として続いており、少なくとも2001/02年以降、毎年の死亡災害の半数以上を占めている。

Figure 4: Number of fatal injuries to workers by accident kind, 2019/20p and annual average for 2015/16-2019/20p



(図4:労働者の災害の種類別死亡傷害数、2019/20年度暫定及び2015/16~2019/20暫定の年平均)

■ 2019/20 : 2019/20 年度

■ Annual average 2015/16-2019/20 : 2015/16~2019/20 年度暫定の年平均

Main kinds of fatal accident for workers	主要な原因(左欄の日本語仮訳)	死亡者の内訳数	
		■ 2019/20	Annual average 2015/16-2019/20

Falls from a heigh	ght		高所からの墜落	29	34
Struck by moving vehicle			動いている車両に衝突された	20	26
Struck by moving object			動いている物体に衝突された	18	18+
Trapped	by	something	崩壊し、転覆した何かの物体に閉じ込められた	15	14
collapsing/overturning					
Contact with moving machinery		ninery	動いている機械との接触	11	11
Other kind of ac	cident		その他の種類の災害	18	34

- In 2019/20, 29 fatal injuries to workers were due to falls from a height, accounting for around a quarter of all worker deaths over the year, a similar proportion to the latest five years combined.
- Being struck by a moving vehicle accounted for 20 fatal injuries to workers in 2019/20, representing just under 20% of the total number of deaths over the year. This proportion has changed little in recent years.
- Sixteen percent (18) of the fatal injuries in 2019/20 were caused by being struck by a moving, including flying or falling, object, a similar proportion as for the 5-year period 2015/16-2019/20 combined.
- The 18 fatal injury cases in the Other kind of accident category in 2019/20 are made up of a range of different accident kinds including (but not limited to):
- Slips, trips or falls on same level; Exposure to, or contact with, a harmful substance; Exposure to an explosion; Injured by an animal (2 in each kind category)
- Strike against something fixed or stationary; Exposure to fire; Contact with electricity or electrical discharge (1 in each kind category).

- 2019/20 年度において、労働者の死亡傷害者数のうち 29 件は高所からの落下が原因となっており、1 年間の全労働者死亡者数の約 4 分の 1 を占めており、直近の 5 年間を合わせた場合と同程度の割合となっている。
- 2019/20 年度の労働者の死亡傷害のうち、移動中の車両との衝突が 20 件を占めており、年間の死亡労働傷害者数の 20%弱を占めている。この割合は近年ほとんど変化していない。
- 2019/20 年度の死亡災害のうち 16%(18)は、飛来又は落下を含む移動中の 物体との衝突が原因であり、2015/16~2019/20 の 5 年間を合わせた場合と同 様の割合であった。
- ・ 2019/20 年度の「その他の種類の災害」の 18 件の人身事故は、以下のような (ただし、これらに限定されない。)様々な種類の災害で構成されている。
- ・ 滑り、つまずき又は同一平面上での転倒、有害物質へのばく露又は接触、爆発、動物による負傷(各種類とも2件・人)
- ・ 固定されたものや固定されたものにぶつかる; 火災にさらされる; 電気又は 放電に触れる (各種類とも 1 件・人)。

Injuries by gender and age

Fatal injuries to workers are predominately to male workers. In 2019/20, 108 (97%) of all worker fatalities were to male workers, a similar proportion to earlier years.

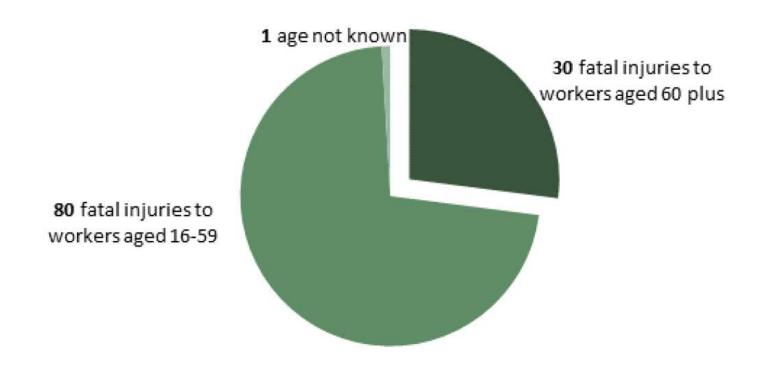
In terms of age, 27% of fatal injuries in 2019/20 were to workers aged 60 and over, even though such workers made up only around 10% of the workforce.

性別及び年齢別の負傷者数

労働者の死亡災害は男性労働者が圧倒的に多い。2019/20 年の全労働者死亡事故のうち 108 件 (97%) が男性労働者によるものであり、これはそれ以前の年と同程度の割合であった。

年齢別に見ると、2019/20 年の死亡事故の 27%が 60 歳以上の労働者によるものであったが、そのような労働者は労働力の約 10%しかいなかった。

Figure 5: Number of fatal injuries by age group, 2019/20p



(訳者注:図5における年齢階層別の内訳)

年齢階層	死亡者数
60 歳以上	30
16—59 歳	80
年齢不詳	1

(図 5 年齢階層別の死亡労働傷害の数)

Figure 6 below shows the fatal injury rate by age group for the period 2015/16-2019/20. This clearly shows how the rate of fatal injury increases with age, with workers aged 60-64 having a rate around twice as high as the all ages rate, and workers aged 65 and over a rate more than four times as high as the all ages rate. Almost all the main industry sectors show an age gradient in fatal injury rate.

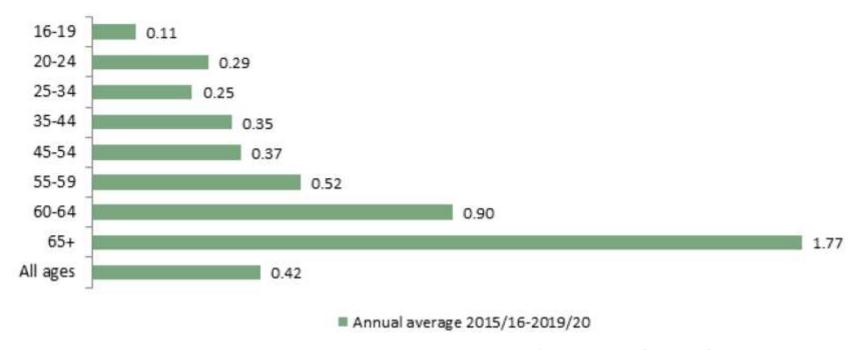
For more details of fatal injuries by age and gender see www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridagegen.xlsx and table 4 www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx

下図6は、2015/16~2019/20の年齢階級別の死亡労働傷害災害率を示している。

60~64歳では全年齢層の約2倍、65歳以上では全年齢層の4倍以上の死亡労働 傷害発生率となっていることがわかる。ほぼすべての主要産業分野で、死亡労働 傷害発生率に年齢勾配が見られる。

年齢及び性別別の死亡労働傷害の詳細については、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridagegen.xlsx 及び表4、www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx を参照のこと。

Figure 6: Rate of fatal injuries by age group (per 100,000 workers), annual average for 2015/16-2019/20p



(図 6:年齢階級別死亡労働傷害発生率(労働者 10 万人当たり)、 ■ Annual average 2015/16-2019/20 2015/16~2019/20p の年平均値)

Injuries by employment status

Around 30% of fatal injuries in both 2019/20 and the five year-period 2015/16-2019/20, were to self-employed workers working mostly in Agriculture, forestry and fishing and Construction but also in other sectors including (but not restricted to) Manufacturing, and Administrative and support service activities (such as renting and leasing activities and services to buildings and landscape activities).

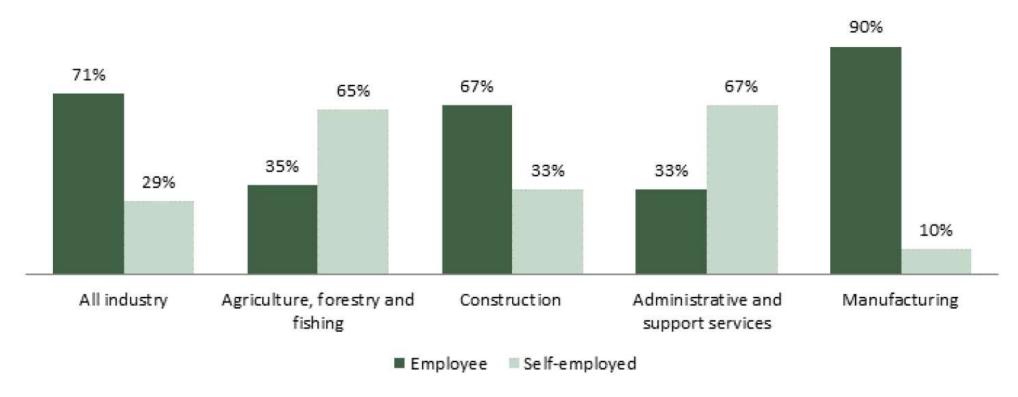
By industry, the proportion of fatal injuries to employees and the self-employed varies considerably, to some extent reflecting the relative make-up of the working population between employees and self-employed.

雇用形態別の傷害

2019/20年及び2015/16-2019/20年の5年間の両方で、死亡労働傷害の約30%は、農業、林業及び漁業並びに建設業を中心に働く自営業者によるものであったが、製造業を含む(ただしこれに限定されない)その他の部門並びに管理・支援サービス活動(賃貸・リース活動、建物及び造園業へのサービスのような)にも従事していた。

産業別に見ると、被雇用者及び自営業者の死亡労働傷害の割合はかなり異なって おり、被雇用者及び自営業者の間の労働人口の相対的な構成をある程度反映して いる。

Figure 7: Fatal injury by employment status for selected industries, 2015/16-2019/20p



(図7:選択された産業の雇用状況別死亡労働傷害、2015/16-2019/20暫定)

■ Employee	被雇用者
■ Self-employed	自営業者

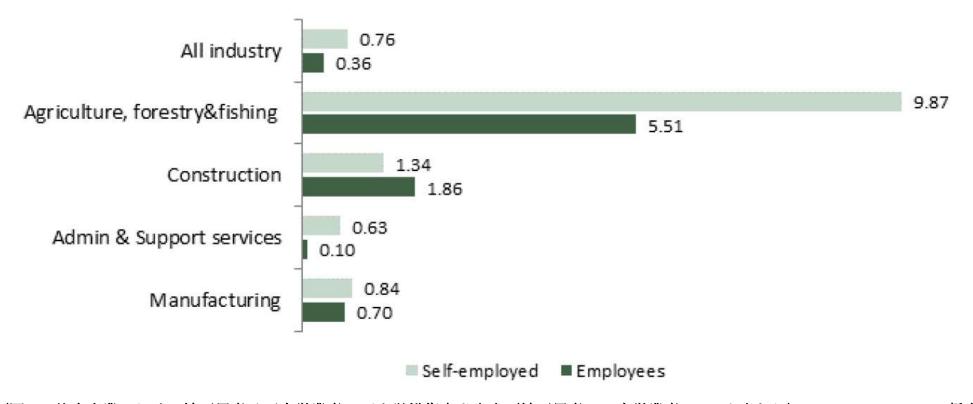
However, some of the difference in the proportion of fatal injuries to the しかし、産業別の自営業者の死亡労働傷害の割合の違いの中には、これらの者(被

self-employed by industry is due to variations in the rate of fatal injury to these workers. Overall, the fatal injury rate for the self-employed is more than double that for employees. This increased rate for self-employed workers is seen particularly in the Agriculture, forestry and fishing sector and Administration and Support service activities. However, in construction and manufacturing, there is more parity in the rate of fatal injury between employees and self-employed workers.

雇用者及び自営業者)の死亡労働傷害発生率の違いによるものもあります。 全体として、自営業者の死亡労働傷害発生率は被雇用者の 2 倍以上である。 自営業者の死亡労働傷害発生率の増加は、特に農林水産業並びに管理・支援サービス業で顕著である。

しかし、建設業や製造業では、被雇用者及び自営業者の間の死亡事故率は、より 平準化されている。

Figure 8: Rate of fatal injuries to employees and self-employed workers (per 100,000 employees / self-employed) for selected industries, 2015/16 - 2019/20p



(図8:特定産業における被雇用者及び自営業者の死亡労働傷害発生率(被雇用者又は自営業者10万人当たり)、2015/16~2019/20暫定)

■ Employee	被雇用者		
Self-employed	自営業者		

(図8における業種の「英語原文―日本語仮訳」)

産業部門	左欄の日本語仮訳
All industry	全産業
Agriculture, forestry & fishing	農業、林業及び漁業
Construction	建設業
Administrative and support services	管理及び支援サービス
Manufacturing	製造業

For	more	details	of	fatal	injuries	by	employment	status,	see	雇用形態別の死亡労働傷害の詳細については、
www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal.xlsx									www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal を参照のこと。	

Injuries by country within GB

Figure 9 below shows the country or region where the accident occurred for fatalities in 2019/20. The number of fatalities in some regions is relatively small, hence susceptible to considerable variation. Accidents involving multiple fatalities can also affect annual totals. Therefore Figure 9 also shows the annual average number of deaths for the five-year period 2015/16-2019/20 as this reduces the effect of year-on-year fluctuations.

Figure 9: Number of fatal injuries by country and region within GB, 2019/20p and annual average for 2015/16 - 2019/20p (annual average number in brackets)

England as a whole 85 (107) England region not known 2 (1)

グレートブリテン内の国別死亡労働傷害数

下図9は、2019/20年の死亡者数について、事故が発生した国別・地域別の内訳を示したものである。地域によっては死亡者数が比較的少ないため、かなりのばらつきがある。複数の死者を含む事故は、年間の合計にも影響を及ぼす可能性がある。そのため、図9は2015/16~2019/20の5年間の年間平均死亡者数も示しているが、これは前年比の変動の影響を軽減するためである。

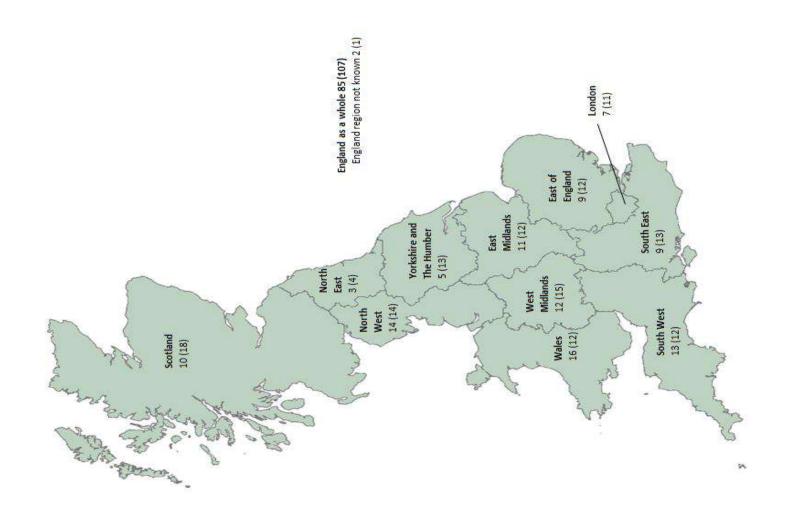
図 9: GB 内の国・地域別死亡事故件数、2019/20 暫定及び 2015/16~2019/20pの年間平均(カッコ内は年間平均件数)

イングランドは全部で85(107)

イングランドの地域別データは、知られていない。

Figure 9: Number of fatal injuries by country and region within GB, 2019/20p and annual average for 2015/16 - 2019/20p (annual average number in brackets)

(図 9:GB 内の国・地域別死亡事故件数、2019/20p、 $2015/16\sim2019/20p$ の年間平均(カッコ内は年間平均件数))



- The number of deaths in Scotland has seen large fluctuation in each of the last 2 years with a high of 29 in 2018/19 and a low of 10 in 2019/20. The annual average for the last 5 years is 18.
- There were 5 fatal injuries to workers in 2019/20 in Yorkshire and the Humber, the lowest on record and compares to an annual average of 13 for the 5 year period 2015/16-2019/20.

In terms of fatal injury rate, England consistently has a lower injury rate than either Scotland or Wales. However, injury rates are strongly influenced by variations in the mix of industries and occupations and in England there are a greater proportion of people working in lower risk jobs than in Scotland and Wales. The country injury rate does not make allowance for the varying composition of the workforce between these three nations.

For more details of fatal injuries by country and region within GB, see Table 5, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal-20.xlsx

- ・ スコットランドの死亡者数は、過去 2 年間のそれぞれで大きく変動しており、最高は 2018/19 年の 29 人、最低は 2019/20 年の 10 人となっている。過去 5 年間の年平均は 18 人。
- ・ ヨークシャー及びハンバーの 2019/20 年の労働者の死亡労働傷害は 5 件で、 過去最低であり、2015/16~2019/20 年の 5 年間の年平均 13 件と比較している。

死亡災害率という点では、イングランドはスコットランドやウェールズに比べて一貫して低い。しかし、死亡労働傷害発生率は産業や職業の構成の違いに大きく影響されており、イングランドではスコットランドやウェールズに比べてリスクの低い仕事に従事する人の割合が高い。イングランドでは、スコットランドとウェールズよりもリスクの低い仕事に就いている人の割合が高く、国別の負傷率には、この3カ国間の労働者の構成の違いは考慮されていない。

イングランドの国別・地域別の死亡災害の詳細については、表 5 (www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal-20.xlsx) を参照のこと。

Injury comparison with other countries

Since 1990, the statistical authority for the European Union (Eurostat) has worked with member states on a harmonisation programme to give consistency to workplace injury statistics across the EU. To take account of differing industrial backgrounds across member states, Eurostat publishes industry standardised incidence rates. The standardised rate accounts for variation in industry composition EU countries. (See the appendix across www.hse.gov.uk/statistics/european/european-comparisons.pdf for further details on the standardisation process).

The UK consistently has one of the lowest rates of fatal injury across the EU.

- In 2017 the standardised rate, at 0.52 per 100,000 employees, was one of the lowest of all European countries and compares favourably with other large economies such as France, Germany, Italy, Spain and Poland.
- Similarly, the UK three-year average rate for 2014-2016 (0.53 per 100,000 employees) was the lowest of all EU member states.
- Standardised rates published by Eurostat are based on fatalities
 occurring across all main industry sectors (excluding the transport
 sector). Whilst road traffic accidents should not be included in these rates,
 their removal may not always be complete. This should be considered
 when reviewing rates for individual countries.

他の国との比較

1990年以来、欧州連合統計局(Eurostat)は加盟国と協力して、EU全体の労働 災害統計に一貫性を持たせるための調和プログラムに取り組んできた。加盟国間 の産業背景の違いを考慮して、Eurostat は産業別標準化発生率を公表している。

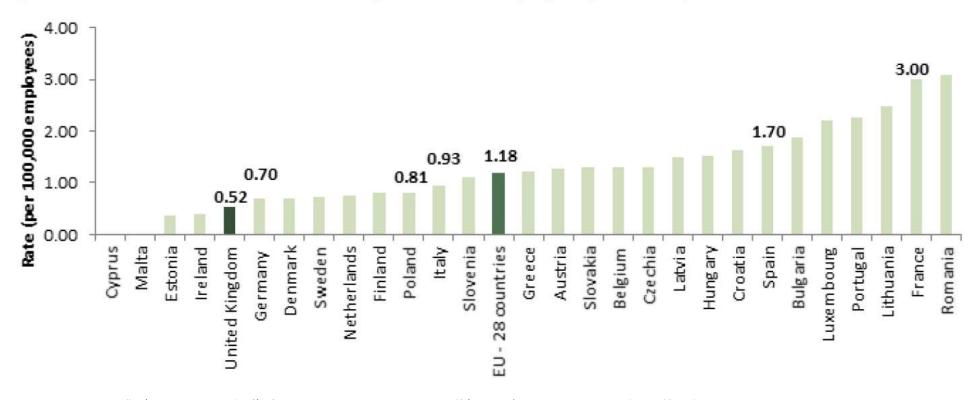
この標準化率は、EU 諸国間の産業構成のばらつきを考慮している。標準化プロセスの詳細については、

www.hse.gov.uk/statistics/european/european-comparisons.pdf の付録を参照のこと。

英国は、EU全体で死亡災害率が一貫して最も低い国の一つである。

- 2017年の標準化率(被雇用者 10万人当たり 0.52人)は欧州諸国の中で最も低く、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランドなどの他の大国と比較しても遜色ない。
- 同様に、2014年から2016年の英国の3年平均(10万人当たり0.53人)は、
 EU加盟国の中で最も低い水準であった。
- ユーロスタットが公表している標準化された率は、すべての主要産業部門(運輸部門を除く。)で発生した死亡者数に基づいている。交通事故はこれらの率に含まれるべきではないが、その除去が必ずしも完全ではない場合もある。これは、個々の国の死亡率を検討する際に考慮すべきである。

Figure 10: Standardised incidence rates (per 100,000 employees) of fatal injuries at work for 2017



(図 10:2017年の業務上の死亡労働傷害の標準化された発生率(被雇用者 10 万人当たり)の推移)

Global comparisons, for example, with the USA, Asia etc., are not available due to differences in definitions of workplace accidents and reporting systems.

例えば、米国やアジア等との全世界的な比較は、労働災害の定義及び報告制度の 違いにより利用できない。

For more details see www.hse.gov.uk/statistics/european/table1.xlsx

詳細については、www.hse.gov.uk/statistics/european/table1.xlsx を参照のこと。

(per 100,000 employees) of fatal injuries at work for 2017 のデータは見出せなかった。HSE がここで紹介しているデータは、HSE が European Union (Eurostat) から独自に提供されたものであると思われる。)

Potential impact of COVID-19 on number of fatal injuries in 2019/20

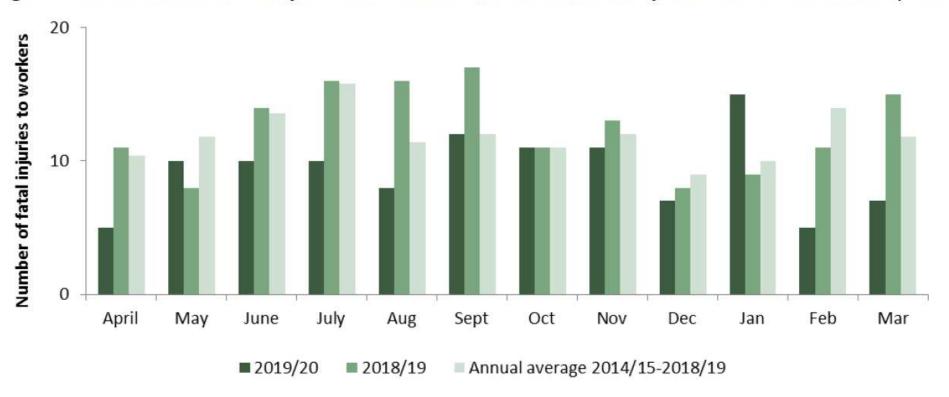
2020 has been marked by the COVID-19 pandemic and it has impacted on all corners of life, both in Great Britain and around the world. In Great Britain we entered a period of lockdown on 23rd March 2020 though there was some disruption to life in the weeks leading up to this. This has had a major impact on the UK economy. A report by ONS4 on the impact on UK output shows that GDP fell by 5.8% in the month of March, while in February although GDP grew by 0.1% over the quarter there was some anecdotal evidence that there were both "some small positive and negative indirect effects [of COVID-19 on the economy] ... although the number of negative impacts was greater".5 Figure 11 below shows numbers of worker deaths by month in 2019/20 compared against other recent time periods. With the exception of May, October and January the number of worker deaths each month was generally lower than compared with either 2018/19 or the annual average for the previous 5-year period, though it should be appreciated that, statistically speaking monthly numbers are low and subject to considerable natural fluctuation.

COVID-19 が 2019/20 年の死亡労働傷害者数に与える影響の可能性

2020 年は COVID-19 の世界的流行 (パンデミック) によって注目され、それは 英国及び世界中の生活の隅々に影響を与えた。英国では、これに至るまでの数週間は生活に多少の混乱があったが、2020 年 3 月 23 日にロックダウンの期間に入った。これは英国経済に大きな影響を与えた。英国の生産高への影響に関する ONS4 の報告書によると、3 月の GDP は 5.8%減少したが、2 月の GDP は四半期で 0.1%増加したものの、「わずかなプラスとマイナスの間接効果(COVID-19 の経済への)……マイナスの影響の方が大きいが」という逸話的な証拠がいくつかあった。

下の図 11 は、最近の他の期間と比較した 2019/20 年の月別労働者死亡者数を示している。5月、10月、1月を除いて、各月の労働者の死亡者数は、2018/19 年又は過去 5 年間の年平均と比較して、一般的には低いが、統計的に言えば、毎月の数字は低く、かなりの自然変動があることを理解すべきである。

Figure 11: Number of fatal injuries to workers in Great Britain, by month for recent time periods



(図11:英国の労働者の死亡災害数、最近の期間の月別内訳)

■ 2019/20	2019/20 年度
2018/19	2018/19 年度
Annual average 2014/15-2018/19	2014/15~2018/19 年度までの年度平均

Even without COVID-19, 2019/20 was on track for a lower number of deaths over the year compared with other recent years. However, the number of deaths in both February and March were particularly low compared to other recent time periods

COVID-19 がなかったとしても、2019/20 年は他の最近の時期と比較して年間の 死亡者数は減少傾向にあった。しかし、2 月と3 月の死亡者数は、最近の他の時 期に比べて特に少なく、COVID-19 が英国経済に影響を与え始めた時期と重なっ and this coincides with the time that COVID-19 was starting to have an impact on the GB economy. While it is not possible to say what the number of deaths in February and March would have been in the absence of COVID-19, there is certainly the distinct possibility that the number of deaths to workers was affected by the impact of COVID-19 on the economy.

ている。COVID-19 がなかったら、2 月と3 月の死亡者数はどうなっていたかはわからないが、COVID-19 の経済への影響が労働者の死亡数に影響を与えていた可能性は確かにある。

Table 1 shows how the number of deaths in 2019/20 for the periods April–January, April-February and April-March compares with other recent periods. All three periods show the number of deaths in 2019/20 to be lower than comparable time periods in other recent years. However, the difference in numbers for the pre-COVID-19 period April-January is not statistically significant and can possibly be explained by natural year-on-year fluctuations. In contrast, the difference in numbers for the full year are statistically significant suggesting that there has been a real change in 2019/20, though it is likely that the impact of COVID-19 will have contributed to this.

表1は、4月~1月、4月~2月及び4月~3月の期間の2019/20年の死亡者数が他の最近の期間と比較してどのようになっているかを示している。

3つの期間すべてにおいて、2019/20年の死亡者数は、他の最近の比較可能な期間よりも低いことが示されている。しかし、COVID-19以前の4-1月期の数字の差は統計的に有意ではなく、自然な前年比の変動によって説明できる可能性がある。対照的に、通年の数字の差は統計的に有意であり、COVID-19の影響が寄与していると思われるが、2019/20年には実質的な変化があったことを示唆している。

(参考資料:

- 4 Office for National Statistics: Coronavirus and the impact on output in the UK economy https://www.ons.gov.uk/economy/grossdomesticproductgdp/articles/coronavirusandtheimpactonoutputintheukeconomy/march2020
- 5 Office for National Statistics: www.ons.gov.uk/economy/grossdomesticproductgdp/bulletins/gdpmonthlyestimateuk/february2020#related-links

Table 1: Number of fatal injuries to workers in Great Britain for the period April-January, April-February and April-March for recent time periods

	Nun	Number of worker deaths			nge in number in cically significant ^ ared with
		Annual average			Annual average
	2019/20	2018/19	2014/15-2018/19	2018/19	2014/15-2018/19
April - January	99	123	117	No	No
April-February	104	134	131	No	Yes
April-March	111	149	143	Yes	Yes

[^] Tests of statistical significance at the 95% confidence level

(表1:最近の時期の4月~1月、4月~2月、4月~3月の期間における英国の労働者の死亡労働傷害者数)

(資料作成者注:上記表1の右欄の部分の英語原文―日本語仮訳)

Was the change in number in 2019/20 statistically significant \land compared	2019/20 年の数字の変化は、2018/19 又は年間平均 2014/15~2018/19 と比較して
with	統計的に有意であったか A
2018/19 or Annual average $2014/15 - 2018/19$?	
\wedge Tests of statistical significance at the 95% confidence level	A95%信頼水準での統計的有意性の検定

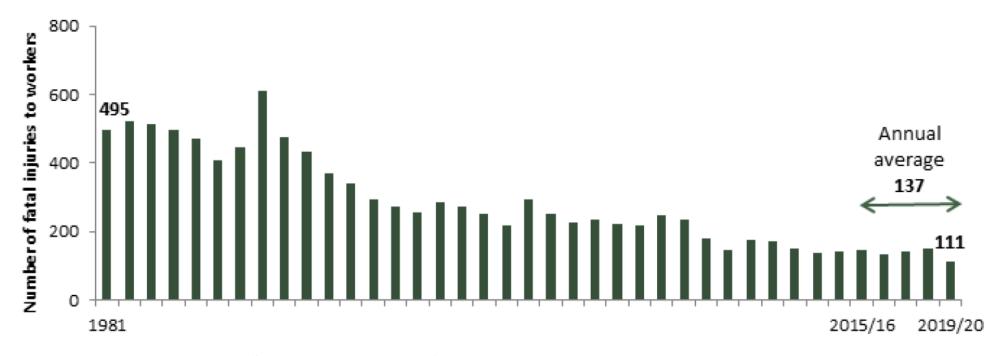
Longer term trends

Despite long term reductions in the number of workers killed by work activities, each year such cases continue, with 111 such deaths in 2019/20. This number compares with 220 twenty years ago (1999/2000) and 495 in 1981 (prior to 1981 only fatal injury numbers to employees were reported to enforcing authorities).

長期的傾向

労働活動による死亡者数は長期的に減少しているにもかかわらず、毎年このような事例が続いており、2019/20年の死亡者数は111人となっている。この数は、20年前(1999/2000年)の220件、1981年の495件(1981年以前は被雇用者への死亡労働傷害者数のみが執行機関に報告されていた。)と比較しても遜色がない。

Figure 12: Number of fatal injuries to workers in Great Britain, 1981-2019/20p



(図 12:英国における労働者の死亡傷害者数、1981-2019/20 暫定)

As described in earlier sections, the 111 fatal injuries in 2019/20 represents a

前述したように、2019/20年の111人の死亡者数は2018/19年から38人減少し

decrease of 38 fatalities from 2018/19 and is the lowest annual number on record. However numbers for 2019/20 are potentially affected by impacts of the COVID-19 pandemic on the GB economy. While the overall number for 2019/20 is statistically significantly lower than in other recent years, it is likely that the impact of COVID-19 will have contributed to this. Comparing the number of fatal injuries for the pre-COVID period months April-January supports this, showing that while the number of fatal injuries are lower than in recent years, the difference is not statistically significant and can possibly be explained by natural variation in the figures.

たことを示しており、過去最低の年間数となっている。

しかし、2019/20年の数字は COVID-19の世界的流行(パンデミック)の英国経済への影響を受ける可能性がある。2019/20年の全体の数字は、近年の他の年に比べて統計的に有意に低いが、COVID-19の影響がこれに寄与している可能性が高い。COVID 前の4月から1月までの期間の死亡者数を比較すると、死亡者数は近年よりも少ないものの、その差は統計的に有意ではなく、数字の自然変動によって説明できる可能性があることが示されており、これを裏付けるものとなっている。

By natural variation we mean that if we had identical conditions between two years; identical people doing identical jobs in identical industries working in identical conditions, the number of fatalities would not necessarily be the same. This is because the final total is at least partly related to chance and randomness. Examining the causal factors behind individual fatal accidents, it is often found that an unfortunate set of chance events have occurred together with shortcomings in safety precautions. Annual counts of fatalities can also be influenced by multiple fatalities; that is one incident resulting in more than one death.

自然変動というのは、2 年間の条件が同じであれば、同じ産業で同じ仕事をしている同じ人たちが同じ条件で働いていても、死亡者数は必ずしも同じではないということを意味している。

これは、最終的な総計の少なくとも一部に偶然性やランダム性が関係しているからである。個々の死亡事故の因果関係を調べてみると、多くの場合、不運な偶然の出来事と安全対策の不備が重なって発生したことがわかる。

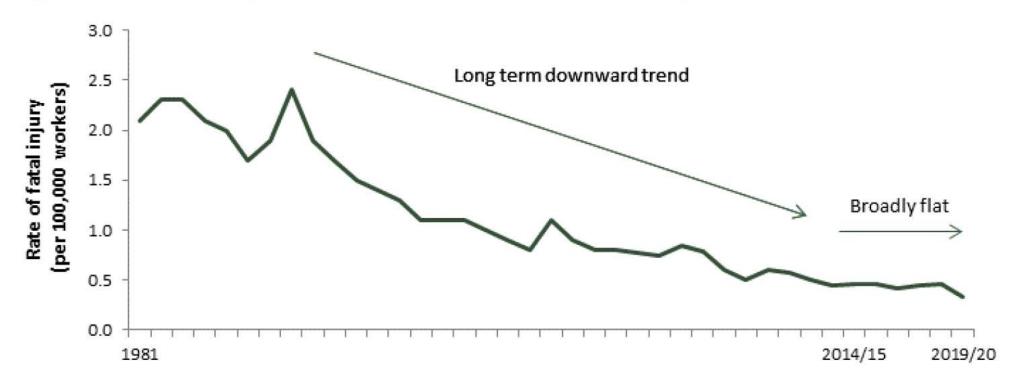
また、年間の死亡者数は、1 件の事故で複数の死亡者が発生した場合にも影響を 受けることがある。

Taking employment levels into account, the 111 fatalities in 2019/20 gives rise to a fatal injury rate of 0.34 deaths per 100,000 workers. When considering trends over time it is preferable to consider the rate of injury rather than just the number of injuries as the rate accounts for changes in the numbers in employment between years. Like the fatal injury number, the rate for 2019/20 is similarly potentially affected by COVID-2019. Despite the fall in rate in 2019/20, the long-term picture for the fatal injury rate is similar to that for fatal injury numbers: a long-term downward trend but has been broadly flat in recent years.

雇用水準を考慮に入れると、2019/20年の111人の死亡者数から、労働者10万人当たりの死亡災害率は0.34人となる。経時的な傾向を考慮する場合は、労働傷害者数よりも負傷率を考慮することが望ましい。

死亡労働傷害者数と同様に、2019/20年の死亡労働傷害発生率もCOVID-2019の影響を受ける可能性がある。2019/20年の死亡労働傷害発生率の低下にもかかわらず、死亡労働傷害発生率の長期的な状況は死亡労働傷害者数と同様であり、長期的には低下傾向にあるが、ここ数年はほぼ横ばいで推移している。

Figure 13: Rate of fatal injuries to workers in Great Britain, 1981-2019/20p



(図 13: 英国における労働者の死亡労働傷害発生率、1981-2019/20 暫定)

For	more	details	see	www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridhist.xlsx	and	詳	細	は	www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridhist.xlsx	と
www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal-20.xlsx				www	.hse.go	v.uk/st	atistics/tables/ridfatal-20.xlsx を参照のこと。			

Rate of fatal injury	死亡労働傷害の発生率(労働者(自営業者を含む。)	
(per 100,000 workers)	100,000 人当たり)	

Fatal injuries to members of the public

Fifty one members of the public were killed in 2019/20 as a result of a work-connected accident in HSE enforced workplaces and a further 41 occurred on railways (enforced by the Office for Road and Rail). No data is currently available on the number of such deaths in Local Authority (LA) enforced workplaces in 2019/20 as we have been unable to verify these cases with LAs during the current COVID-19 pandemic. Typically, in recent years the number of such deaths has ranged between 12 and 16 deaths annually.

Of the 51 deaths in HSE enforced workplaces, around two-thirds (33) occurred in the Health and social work sector, all in Scotland and Wales (since 2015/16 the Care Quality Commission enforce in this sector in England. Patient and service user deaths in CQC enforced workplaces are not included in the HSE count of deaths to members of the public). A further five deaths were recorded against Public Administration and 4 in Construction.

Comparison of numbers between years is complicated by recent changes in reporting requirements. Since October 2013, the requirement to report suicides to members of the public on railways (which accounted for a high proportion of railway deaths) was removed. And as detailed above, since 2015/16, the fatality figure no longer includes 'patient and service users' deaths in England for premises registered with the Care Quality Commission. Previously these statistics were recorded as member of the public deaths in Health and social work. This year, we also have the additional issue of lack of data for the current year in LA enforced workplaces.

To get an indication of changes in work-related deaths to members of the public, the chart below considers work-related deaths to members of the public in HSE enforced workplaces excluding those that occurred in the Health and social work

一般公衆への死亡労働傷害者

2019/20 年には、HSE が施行した職場で業務上の災害の結果、一般市民の 50 名が死亡し、さらに 41 名が鉄道(道路及び鉄道局が施行)で発生した。

現在の COVID-19 の世界的流行(パンデミック)の期間中に地方自治体(LA)にこれらの事例を確認することができなかったため、2019/20 年の地方自治体 (LA) が施行した職場でのこのような死亡者数に関するデータは現在入手できていない。一般的に、近年のそのような死亡者数は年間 $12\sim16$ 人の間で推移している。

HSE が施行した職場での 51 人の死亡のうち、約3分の2 (33人) はスコットランド及びウェールズの保健及び社会保障部門で発生している (2015/16 年以降、イングランドではケア・クオリティ委員会 (CQC)がこの部門で施行している。)。 CQC が施行した職場での患者やサービス利用者の死亡は、HSE の一般市民に対する死亡数には含まれていない。) さらに 5 人の死亡が行政部門で、4 人の死亡が建設部門で記録された。

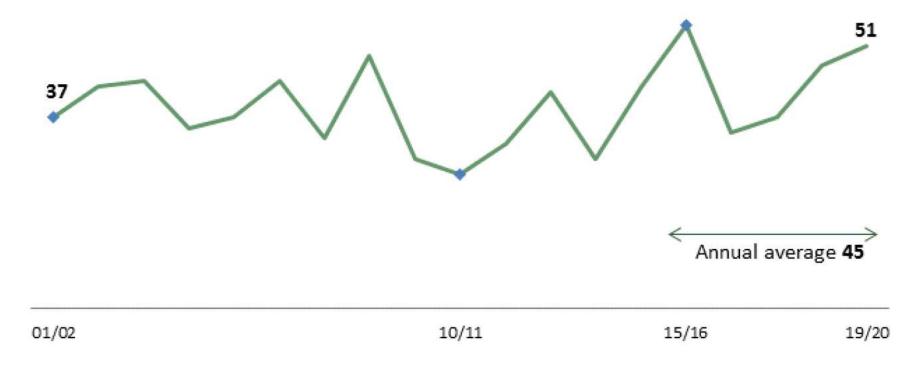
年間の数字の比較は、報告要件の最近の変更によって複雑になっている。

2013年10月以降、鉄道を利用した自殺者(鉄道死亡者の割合が高かった。)を一般市民に報告する要件が削除された。また、上記に詳述したように、2015/16年以降、死亡者数には、Care Quality Commission に登録されている施設のイングランドにおける「患者及びサービス利用者」の死亡は含まれなくなった。

以前は、これらの統計は、医療及び社会保障活動の一般市民の死亡として記録されていたが、2015/16年からは、「患者とサービス利用者」の死亡も含まれなくなった。また、今年は、地方自治体(LA)施行の事業所の今年のデータが不足しているという追加の問題も存在する。

一般市民の業務上の死亡者数の変化を知るために、以下の表では、HSE が施行した職場での一般市民の業務上の死亡者数から、イングランドの医療及び社会保障活動部門で発生したものを除いたものを考察している。これによると、過去 20

Figure 14: Number of work-related deaths to member of the public in HSE enforced workplaces, excluding deaths in health and social care in England: GB 2001/02 - 2019/20p



(図 14 HSE が施行している職場での一般市民の業務上の死亡労働傷害者数(イングランドの医療・福祉分野での死亡者数を除く。: GB 2001/02~2019/20 暫定)

For more details see Table 2, www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal-20.xlsx

詳細は表 2 を参照のこと。<u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/ridfatal-20.xlsx</u>

ANNEX 1: Sources and definitions

| 附属書1:資料出所及び定義

Coverage of fatal injury numbers

Fatal injuries included in this report are those that the relevant enforcing authority (namely HSE, Local authorities or the Office of Rail and Road) have judged as reportable under the Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations (RIDDOR).

Certain types of work-related injury are not reportable under RIDDOR, hence excluded from these figures. Particular exclusions include:

Fatal accidents involving workers travelling on a public highway (a 'road traffic accident'). Such incidents are enforced by the police and reported to the Department for Transport. Those killed whilst commuting (travelling from home to work, and vice versa) are also excluded. For road accident statistics, see

www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/road-accidents-and-safety-statistics

- Fatal accidents involving workers travelling by air or sea. These incidents
 are the responsibility of the Air Accident Investigation Branch and
 Marine Accident Investigation Branch of the Department for Transport
 and reported accordingly;
- Fatalities to members of the armed forces on duty at the time of incident;
- Fatal injuries at work due to 'natural causes', often heart attacks or strokes, unless brought on by trauma due to the accident.

死亡傷害数のカバーしている範囲

この報告書に含まれる死亡傷害は、関連する執行機関(すなわち HSE、地方自治体又は鉄道・道路局)が傷害、疾病及び危険事象報告規則(RIDDOR)に基づいて報告されたと判断されたものである。

特定の種類の労働関連の死亡傷害は RIDDOR のもとでは報告されないため、これらの図から除外されている。 特に除外されるものは、

• 公共の高速道路を移動する労働者を含む死亡事故(「道路交通事故」)。 このような事件は警察によって執行され、運輸省に報告される。通勤中に死亡したもの(自宅から職場への移動及びその逆)も除外される。 交通事故の統計については

 $\underline{www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/roa}\\ \underline{d\text{-accidents-and-safety-statistics}}$

を参照されたい。

- 空路又は海路で移動する労働者を含む死亡事故。これらの事件は運輸省の航空事故調査部門と海洋事故調査部門の責任であり、それに応じて報告されている。
- 事件発生時に従事していた軍隊の構成員の死亡者数
- 事故による外傷によるものでない限り、「自然の原因」による、しばしば起こる職場での心臓発作又は脳卒中による死亡事故

Fatal injury statistics presented in this report also exclude deaths from occupational diseases (including COVID-19). Typically, for many occupational diseases, death occurs many years after first exposure to the causative agent. The asbestos-related cancer mesothelioma is one of the few examples where deaths due to an occupational disease can be counted directly. There were 2,446 such deaths in GB in 2018 - see www.hse.gov.uk/statistics/causdis/asbestos-related-disease.pdf.

Other occupational deaths usually have to be estimated rather than counted. Each year around 13,000 deaths from occupational lung disease and cancer are estimated to have been caused by past exposure, primarily to chemicals and dust, at work. (This estimate includes the count of mesothelioma deaths).

この報告書に記載されている死亡災害統計には、職業病(COVID-19を含む。)による死亡も含まれていない。一般的に、多くの職業性疾患では、原因物質に最初にばく露してから何年も経ってから死亡することが多い。石綿関連がんの中皮腫は、職業病による死亡を直接数えることができる数少ない例の一つである。2018年には GB で 2,446 件のこのような死亡があった ・ www.hse.gov.uk/statistics/causdis/asbestos-related-disease.pdf を参照のこと。その他の職業病による死亡は通常、数えるのではなく推定しなければならない。毎年、約13,000人の職業性肺疾患及びがんによる死亡者が、主に化学物質や粉じんへの過去のばく露が原因であると推定されている。(この推定には中皮腫による死亡者数も含まれている)。

Table 2: Differences in provisional and finalised counts of fatal injuries to workers, 2015/16-2019/20p

	Provisional	Revised	
Year	figure	finalised	Difference
		figure	
2019/20p	111	-	
2018/19r	147	149	+2
2017/18	144	141	-3
2016/17	137	135	-2
2015/16	144	147	+3

(表2 労働者の死亡労働傷害者数の暫定数と確定数の差、2015/16~2019/20 暫定)

(訳者注:この表2中の「英語原文―日本語仮訳」は、次のとおりである。)

英語原文	日本語仮訳
Provisional figure	暫定的な数字
Revised finalized figure	改訂・確定値
Difference	相違

Fatal injury rates

Differences in the size of the workforce will impact on comparisons of the number of fatalities, both over time and between one group and another within a year (e.g. between different industry groups). In order to make robust comparisons, it is important to consider the rate of fatal injury. The rate is constructed by dividing the count of fatal injuries by the employment estimate. This is then multiplied by a factor of 100,000 to give a rate per 100,000 workers, in line with international standards. The source of employment data used to construct the injury rates from 2004/05 onwards is the Annual Population Survey (APS).

死亡傷害発生率

労働力の規模の相違が、死亡傷害の数に関する時間的及び1年以内のあるグループと他のグループ (例えば、異なる産業グループ間の) との両方の比較に影響している。強固な比較をするためには、死亡率を検討することが重要である。死亡率は、見積もられた雇用者数で、死亡傷害の数を割ることで策定される。これは、それから国際的な標準に沿って、労働者 100,000 人当たりの発生率にするために100,000 の因子を乗ぜられる。死亡傷害発生率を策定するための雇用者数のデータは、2004/2005 年度以来現在まで、年間人口調査 (APS) から使用される。

Statistical significance

The total fatal injury count is subject to a degree of chance and randomness; if exactly the same conditions prevail in two different years then it is likely that the annual count will differ due to natural variation. We use tests of statistical significance at the 95% confidence level to judge whether a difference between years is likely to be explained by natural variation alone or whether it represents a statistically significant difference. (Note statistical significance should not be

統計的有意性

死亡傷害の合計は、偶然及び無作為性の程度に従う、もしも、異なる2年間に同じ条件が支配的であれば、年間の数は、自然的な変動により異なるであろう。 我々は、95%の信頼性の水準で、年々の相違が自然的な変動のみなのか、又はそれが統計的に有意な相違を表しているかどうかによって説明されることができるようであるかを判断するために、統計的有意性の試験を使用している。

(注:統計的有意性は、個々の傷害の有意性と混同されてはならない。それぞれ

confused with the significance of each injury. Every casualty is a tragedy and has both a social cost and a personal cost to those directly affected).

の犠牲者は、悲劇であって、これらの直接影響される者に対する社会的コスト及 び個人的コストの両方である。)

For more information see www.hse.gov.uk/statistics/sources.pdf

さらなる情報については、<u>www.hse.gov.uk/statistics/sources.pdf</u> を参照されたい。

Industry definitions

The table below presents the 2007 Standard Industrial Classification (SIC) codes used to define the top-level industry groupings presented in this report.

産業 (分類) の定義

次の表は、この報告で示されている産業別のグループの大分類を定義するために 使用された 2007 年の標準産業分類 (SIC) 規則を示している。

SIC Code Industry Description	標準産業分類 (SIC) 規則の記述
Section A Agriculture	A:農業
Section B Mining and quarrying	B:鉱業及び採石業
Section C Manufacture	C:製造業
Section D Electricity, Gas, Steam and Air Conditioning	D: 電気、ガス、蒸気及び空調
SectionE Water Supply, Sewerage, Waste Management and Remediation	E: 水道、下水道、廃棄物管理及び改善
Division 38 - of which waste and recycling	第 38 部廃棄物及びリサイクル業
Section F Construction	F: 建設業
Section G,I Wholesale and retail trade; repair of motor vehicles and	G,I: 卸小売業、自動車及びオートバイ修理業、宿泊及び食品サービス業
motorcycles; accommodation and food service activities	
Section H Transport and storage	H:運輸及び倉庫業
Section J-N Communication, business services and finance	J—N:通信、事業サービス及び財務業
Section O-Q Public administration; education; human health and	O-Q: 公務、教育、医療及び社会保障活動
social work activities	
Section R-U Arts, entertainment and recreation; all other service	R-U: 芸術、娯楽及びレクリエーション、他のすべてのサービス活

Activities			

For more details of what is included in these SIC codes, please see the 2007 Standard Industrial Classification.

これらの SIC コードに含まれるものの詳細については、2007 年標準産業分類を参照すること。

National Statistics

National Statistics status means that statistics meet the highest standards of trustworthiness, quality and public value. They are produced in compliance with the Code of Practice for Statistics, and awarded National Statistics status following assessment and compliance checks by the Office for Statistics Regulation (OSR). The last compliance check of these statistics was in 2013.

It is Health and Safety Executive's responsibility to maintain compliance with the standards expected by National Statistics. If we become concerned about whether these statistics are still meeting the appropriate standards, we will discuss any concerns with the OSR promptly. National Statistics status can be removed at any point when the highest standards are not maintained and reinstated when standards are restored.

Details of OSR reviews undertaken on these statistics, quality improvements, and other information noting revisions, interpretation, user consultation and use of these statistics is available from www.hse.gov.uk/statistics/about.htm

An account of how the figures are used for statistical purposes can be found at $\underline{www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm}\;.$

For information regarding the quality guidelines used for statistics within HSE see www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm

国家統計

国家統計の位置づけとは、統計が信頼性、品質及び公共価値の最高基準を満たしていることを意味する。これらの統計は、統計実施規範に準拠して作成され、統計規制局(OSR)による評価及びコンプライアンスチェックを経て、国家統計の位置づけを授与される。これらの統計の最後のコンプライアンスチェックは2013年に行われた。

国家統計によって予想される基準との適合性を保持することは、HSE の責任である。もしも、これらの統計が依然適切な基準に適合しているかどうか懸念があるならば、我々は、速やかにいかなる懸念もその権威(ある機関)と協議するであろう。国家統計の重要性は、最高の基準が保持されないときにはいかなる瞬間でも取り除かれ、そして基準が回復されたときには復帰される。

これらの統計について実施された OSR レビューの詳細、品質改善及びこれらの統計の改訂、解釈、利用者からの相談、利用に関するその他の情報は、www.hse.gov.uk/statistics/about.htm から入手可能である。

統計目的のためにこれらの数字が如何に用いられるかの説明は、

www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm で得られる。

HSE の内部で統計として使用されている品質のガイドラインに関する情報に関する情報については、www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm

A revisions policy and log can be seen at www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/
Additional data tables can be found at www.hse.gov.uk/statistics/tables/.

General enquiries: Statistician heidi.edwards@hse.gov.uk

Journalists/media enquiries only: www.hse.gov.uk/contact/contact.htm-

を参照されたい。

改訂の方針及び記録は、<u>www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/</u>で見ることができます。

追加的なデータ表は、<u>www.hse.gov.uk/statistics/tables/</u> . で見出すことができる。

一般的な質問:統計官 heidi.edwards@hse.gov.uk

報道機関の質問のみ: www.hse.gov.uk/contact/contact.htm

(参考資料1)

◎ 労働災害の発生率に関する日本及びアメリカ合衆国並びに英国、EU 加盟国全体、EU 加盟諸国のうちフランス及びドイツとの比較について

このような比較を行うのは、日本、アメリカ合衆国、英国並びに EU(欧州連合)、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランド及びオランダの労働災害統計の基本となるデータの特質、統計の対象となる被雇用者の範囲、公務及び国防・義務的社会保障事業従事者の取扱い等が必ずしも同一のものではないことから、一定の困難を伴う。しかしながら、このような条件の下でもこれらの諸国及び EU との労働災害発生率等を比較することには、一定の意味があると考えられる。

そこで、当国際センターが従来作成してきた関係資料、今回作成した資料等から抜粋して、次の資料を作成した。

1 非致死的な労働災害の発生率の日本、アメリカ合衆国、英国並びに EU(欧州連合)、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランド及 びオランダとの比較

国別	統計の対象年	労働災害統計の指標の種類	類及び関係するデータ	タ	左札	闌の指標に関する留意事	資料出所
	(年度)				項		
日本	2013-2018年	日本における全産業死傷年千	人率の推移		•	労働安全衛生法に基づく報	労働者死傷病報告、総務省労働
		(休業4日以上及び死亡	(傷害が対象)			告義務のない公務従事者	力調査に基づく厚生労働省公表
		暦年	死傷年千人率			は、除外されている。	資料
		2013年(平成 25年)	2.3		•	道路交通災害を含む。	
		2014年(平成 26年)	2.3				
		2015年(平成 27年)	2.2				
		2016年(平成 28年)	2.2				
		2017年(平成 29年)	2.2				
		2018年(平成 30年)	2.3				
アメリカ合衆	2015年	「民間産業では、2015 年の	10,000 人のフルタイム	労働	•	左欄の①では公務従事者	アメリカ合衆国労働統計局
国		者当たりの発生件数は、93.9	件(年千人率に換算す	ると	()	アメリカ合衆国内の軍関係者	(Bureau of labor Statistics)
		9.39) で、2014 年の 97.8 件 (4	年千人率に換算すると 9.	0.78)	を言	含む。)が含まれている。	

	よりは減少した。」	•	いずれも道路交通災害を含	
	مراهام مراها		む。	
2016年	「2016 年には、民間産業の使用者によって報告されたお		℃ °	
2010 +	およそ 290 万件の非致死の傷害及び(職業性)疾病があ			
	った。これらの発生率は、100人のフルタイム換算労働			
	者当たり 2.9 件 (1000 人のフルタイム換算労働者に換算			
	すると 29) の発生率であった。」とされている。このこ			
	とと日本の相当するデータを比較すると、2016年におけ			
	る日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率(日本			
	の場合は休業4日以上の災害で死亡災害を含んでいる。)			
	は、2014年、2015年とも2.3、2016年にあっては2.2			
	である。したがって、アメリカ合衆国における労働災害			
	発生率は休業 1 日以上のものを対象にしていること、危			
	険性の低い業種を除外していること等を考慮に入れて			
	も、日本の休業 4 日以上及び死亡災害を対象としている			
	発生率よりは高いと考えられる。			
2017年	「民間の使用者によって 2017 年に報告された非致死的な			
	職場における負傷及び疾病は、おおよそ 280 万の負傷及			
	び疾病があって、その発生率は、フルタイム換算(FTE)			
	労働者 100 人当たり 2.8 件 (1000 人のフルタイム換算労			
	働者に換算すると 28) の発生率であった。」とされてい			
	る。			
2018年	● 民間産業の使用者によって 2018 年 (暦年) に報告さ			
	れた非致死的な職場における負傷及び疾病(休業 1			
	日以上のもの)は、おおよそ 280 万の負傷及び疾病			
	があって、2017 年と変化していませんでした。これ			

		らのデータは、労働傷害及び疾病調査(the Survey of		
		Occupational		
		Injuries and Illnesses (SOII))からの推計です。		
		● 民間産業における記録されたケースの合計(total		
		recordable cases (TRC)) の労働災害発生率は、フル		
		タイム換算(FTE)労働者 100 人当たりでは 2017		
		年の 2.8 件(1000 人のフルタイム換算労働者に換算		
		すると 28)と変化していませんでした。		
		このことと日本の相当するデータを比較すると、2016年		
		における日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率		
		(日本の場合は休業 4 日以上の災害で死亡災害を含んで		
		いる。)は、2014年は2.3、2015年、2016年及び2017		
		年にあっては 2.2、2018 年では 2.3 である。したがって、		
		アメリカ合衆国における労働災害発生率は休業 1 日以上		
		のものを対象にしていること、危険性の低い業種を除外		
		していること等を考慮に入れても、日本の休業 4 日以上		
		及び死亡災害を対象としている発生率よりは高いと考え		
		られる。		
EU 加盟 28 カ		非致死的な災害についての雇用者10万人当たりの発生数		Eurostat (欧州統計局)
国全体(2017		(つまり発生率)		2020年7月1日更新版
年データにつ	2013年	1537. 6		
いては英国の	2014年	1580. 87		
ものが含まれ	2015年	1535. 09		
ている。)	2016年	1570. 84		
	2017年	1556. 86		
英国	2013年	非致死的な災害についての雇用者 10 万人当たりの発生	• 休業 4 日以上のものが対象	• European Statistics on

		数 (つまり発生率) 831.68 (年千人率に換算すると		である。		Accidents at Work (略称:
		8.3168)	•	通勤災害は、除外されてい		ESAW), Eurostat
	2014年	827. 27 (年千人率に換算すると約 8.27)		る。		(hsw n2 01) (2020年7月
	2015年	760.37 (同上。 約 7.60)	•	英国のHSEが公表する統計		1 日更新版)
	2016年	721.87(同上。 約 7.22)		では、道路交通災害は除外	•	European Statistics on
	2017年	710.6 (同上。 約7.11)		されているが、European		Accidents at Work,
				Statistics on Accidents at		(ESAW), Summary
ドイツ	2013年	1900.01 (同上。年千人率に換算すると約 19.0)		Work (略称: ESAW)では対		methodology, 2013 edition
	2014年	1977.31 (同上。 約 19.8)		象に含まれている。		
	2015年	1930.57 (同上。 約19.3)				
	2016年	1950.91 (同上。 約19.5)				
	2017年	1819.55 (同上。 約 18.2)				
フランス	2013年	3,041.67(同上。年千人率に換算すると約 30.4)				
	2014年	3,326.98(時系列的な断絶がある。同上約 33.3)				
	2015年	3160.29 (同上。 約31.6)				
	2016年	3,458.28 (同上。 約34.6)				
	2017年	3395.93(同上。時系列的な断絶がある。約34.0)				
イタリア	2013年	1469.23(同上。年千人率に換算すると約 14.7)				
	2014年	1406.31 (同上。年千人率に換算すると約 14.1)				
	2015年	1313.89(同上。年千人率に換算すると約 13.1)				
	2016年	1300.51 (同上。年千人率に換算すると約 13.0)				
	2017年	1277.69 (同上。年千人率に換算すると約 12.8)				
スペイン	2013年	2580.57 (同上。年千人率に換算すると約 25.8)				
	2014年	2665.36 (同上。年千人率に換算すると約 26.7)				
	2015年	2767.5 (同上。年千人率に換算すると約 27.7)				
	2016年	2807.18 (同上。年千人率に換算すると約 28.1)				

	2017年	2842.41 (同上。年千人率に換算すると約 28.4)
ポーランド	2013 年	512.23(同上。年千人率に換算すると約 5.12)
	2014年	507.02 (同上。年千人率に換算すると約 5.07)
	2015年	509.08 (同上。年千人率に換算すると約 5.10)
	2016年	532.04 (同上。年千人率に換算すると約 5.32)
	2017年	625.19(同上。年千人率に換算すると約 6.25)
オランダ	2013年	1819.29(同上。年千人率に換算すると約 18.19)
	2014年	1255.55(時系列的な不連続がある。同上。年千人率に換
		算すると約 12.56)
	2015年	1032.3 (同上。年千人率に換算すると約 10.32)
	2016年	1134(同上。年千人率に換算すると約 11.34)
	2017年	1284.13(同上。年千人率に換算すると約 12.84)

2 致死的な労働災害(つまり死亡傷害)の発生率についての日本及びアメリカ合衆国並びに EU(欧州連合)、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランド及びオランダについての標準化されていない(実際の)発生率との比較

国別	統計の	労働災害紛	計の指標の種類及び関係するデータ	Ź	左欄の指標に関す	資料出所
	対象年			7	る留意事項	
	(年					
	度)					
日本	2013 年 ~ 2018 年	年 2013 2014 2015 2016	労働者 10 万人当たりの死亡傷害発生数 (試算の方法は、別記を参照されたい。) 2.07 2.11 1.92 1.80		● 労働安全衛生法 に基づく報告義 務のない公務従 事者は、除外され ている。 道路交通災害を	厚生労働省労働基準局

		201	7 1.87		含む。	
		2018	8 1.69			
		2019	9 1.56			
アメリ	2012 年	年	フルタイム等価労働者換算 (equivalent full-tir	ne	いずれも道路交	News release, Bureau of labor Statistics,
カ合衆	~ 2017		workers: 以下同じ。)10万人当たり。下欄で	別	通災害を含む。	U.S. DEPARTMENT OF LABOR
国	年		に明示しない限り公務従事者等を含む全労働	者		NATIONAL CENSUS OF FATAL OCCUPATIONAL
			についての発生率である。			INJURIES IN 2017
		2012	3.4			
			そのうち、民間産業については、3.6			
		2013	3.3			
			そのうち、民間産業については、3.5			
		2014	3.4			
			そのうち、民間産業については、3.7			
		2015	3.4			
			そのうち、民間産業については、3.6			
		2016	3.6			
			そのうち、民間産業については、3.8			
		2017	3.5			
			そのうち、民間産業については、3.7			
		2018	3.5			
			そのうち、民間産業については、3.7			
DII de	2012 5			>=	Z #1 /// /=>)	The state of the s
EU 加	2013年	1.78			通勤災害は、除外され	• European Statistics on Accidents at Work (略称:
盟 28 カ	2014年	1.83			こいる。	ESAW), Eurostat (hsw_n2_02)_ (2020 年 7 月 1 日
国全体	2015年	1.83				

(英国	2016年	1.69	更新版)
を含む	2017年	1.65	• European Statistics on Accidents at Work
。)			(ESAW), Summary methodology, 2013 edition
英国	2013年	0.92	(222117, 20111111111111111111111111111111111111
	2014年	0.81	
	2015年	0.83	
	2016年	0.8	
	2017年		
ドイツ	2013年	0.99	
	2014年	1.09	
	2015年	0.97	
	2016年	0.88	
	2017年		
フラン	2013年	2.96	
ス	2014年	2.7 (時系列上の不連続がある。)	
	2015年	257	
	2016年	2.74	
	2017年		
イタリ	2013年	2.31	
ア	2014年	2.34	
	2015年	2.42	
	2016年	2.11	
	2017年	2.1	
スペイ	2013年	1.88	
ン	2014年	1.93	
	2015年	2.3	

	2016年	1.92
	2017年	1.99
ポーラ	2013年	1.83
ンド	2014年	1.75
	2015年	1.89
	2016年	1.54
	2017年	2
オラン	2013年	0.5
ダ	2014年	0.64 (時系列的な不連続がある。)
	2015年	0.5
	2016年	0.5
	2017年	0.59

(別記-資料作成者注:日本の労働者 10 万人当たりの労働災害死亡率(2013~2018)の試算結果(2020年7月)

労働者死傷病報告、総務省労働力調査に基づく厚生労働省公表資料

年	死亡者数	該当する年の雇用者	役員を除く雇用者	B のうち、公務及び国	D= b - C (単位万人)	労働者 10 万人当たりの死亡傷害
	(A)(厚生	数合計(万人。資料出	数(単位:万人)	防·義務的社会保障事業	(公務及び国防・義務的社会保	発生数(E)=((A)÷ (D) ×10)
	労働省労働	所:総務省統計局)(B)		(国際分類の 0 に該当	障事業従事者 (C) については、	
	基準局)	毎年4月のデータ		する)従事者数(単位人)	役員はいないものと想定し	
				(C) (各年の平均)	た。)	
2015	972	5,653	5,303	231	5,072	1.92
2016	928	5,741	5,391	231	5,160	1.80
2017	978	5,810	5,460	229	5,231	1.87
2018	909	5,927	5,596	232	5,364	1.69
2019	845	5,995	5,660	241	5,419	1.56

資料出所

- 「死亡者数(A)(厚生労働省労働基準局)」: 職場のあんぜんサイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm から抜粋した。
- 「該当する年の雇用者数合計(万人。資料出所:総務省統計局)(B)」及び「左欄のうち、役員を除く雇用者数(b)」: http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html における「長期時系列表 10(1)年齢階級(10歳階級)別就業者数及び年齢階級(10歳階級),雇用形態別雇用者数 全国」http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt52.xls 及び長期時系列表 10 (2)年齢階級(5歳階級)別就業者数及び年齢階級(5歳階級),雇用形態別雇用者数 全国から抜粋した。
- 「雇用者のうち、公務及び国防・義務的社会保障事業(国際分類の O に相当する。)従事者数(単位万人)(C)(各年の平均)」: http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html」 における「長期時系列表 5 (4)産業(第 12・13 回改定分類)別雇用者数 全国」 http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/zuhyou/lt05-06.xls から抜粋した。

参考資料 2 Eurostat (欧州統計局) による主要国労働災害統計データ 2020 年 7 月 1 日公表 (2013~2018)

◎Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex(職場における非致死的な災害、産業別及び性別)

Last update: 01.07.20(最終更新: 2020 年 7 月 1 日)

Source of data: Eurostat

OUNIT: Number(単位:発生数。休業 3 日を超える災害。道路交通災害を含み、通勤災害は含まない。)

NACE_R2: Total - all NACE activities(全産業の合計。道路交通災害を含み、通勤災害は含まない。)

SEX:Total(性別:男女計)

資料作成者注:「一」又は「:」は、未だデータがないことを示す。

TIME	2013	2014	2015	2016	2017	2018
United Kingdom(連合王国:英国)	243,798	244,948	237,008	227,165	225,658	220,985
Poland (ポーランド)	77,339	76,274	81,880	84,037	84,388	77,949
Netherlands(オランダ)	152,214	87,964(b)	72,829	81,165	93,305	:
Italy (イタリア)	329,404	313,312	295,162	295,967	294,161	291,503
France (フランス)	567,407	724,662(b)	731,120	749,670	753,156(b)	:
Spain (スペイン)	370,176	387,439	413,756	432,052	453,437	465,227
Germany (until 1990 former territory of the FRG) (ドイツ。1990 年までは旧西ドイツのデータである。)	852,061	902,892	899,670	917,851	878,525	877,501
European Union - 28 countries (2013-2018) (欧州連合 28 か国合計。2018 年までのデータには英国を含む。)	3,180,506	3,276,596	3,267,085	3,339,900	3,342,349	_

Available flags:		
b : break in time series(時系列的な不連続がある。)	c confidential	d definition differs, see metadata
e estimated	f forecast	n not significant
p provisional	r revised	s Eurostat estimate
u low reliability	z not applicable	

OUNIT:Incidence rate(発生率:労働者 10 万人当たり。道路交通災害を含み、通勤災害は含まない。)

NACE_R2:Total - all NACE activities(全產業合計)

SEX: Total(性別:男女計)

資料作成者注:「:」は、未だデータがないことを示す。

European Union - 28 countries (2013-2018) (欧州連合 28 か国合計。2017 年までのデータには英国を含む。)	1,537.6	1,580.87	1,535.09	1,570.84	1,556.86	:
Germany (until 1990 former territory of the FRG) (ドイツ。1990 年までは旧西ドイツのデータである。)	1,900.01	1,977.31	1,930.57	1,950.91	1,819.55	1,721.56
Spain (スペイン)	2,580.57	2,665.36	2,767.5	2,807.18	2,842.41	2,823.92
France (フランス)	3,041.67	3,326.98(b)	3,160.29	3,458.28	3,395.93(b)	:
Italy (イタリア)	1,469.23	1,406.31	1,313.89	1,300.51	1,277.69	1,255.67
Netherlands(オランダ)	1,819.29	1,255.55(b)	1,032.3	1,134	1,284.13	:
Poland (ポーランド)	512.23	507.02	509.08	532.04	625.19	575.79
United Kingdom(連合王国:英国)	831.68	827.27	760.37	721.87	710.6	691.65

TIME	2013	2014	2015	2016	2017	2018
GEO						

Available flags:		
b: break in time series(時系列的な不連続がある。)	c confidential	d definition differs, see metadata
e estimated	f forecast	n not significant
p provisional	r revised	s Eurostat estimate
u low reliability	z not applicable	

◎Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity(職場での死亡災害)

Last update: 01.07.20(最終更新日:2020年7月1日)

Source of data: Eurostat

OUNIT: Number(単位:発生数)

NACE_R2:Total - all NACE activities(全産業合計。道路交通災害を含み、通勤災害は含まない。)

資料作成者注「:」はデータが未だないことを示す。

TIME	2013	2014	2015	2016	2017	2018
United Kingdom(連合王国:英国)	271	239	260	252	280	249
Poland (ポーランド)	277	263	304	243	270	211
Netherlands(オランダ)	42	45 (b)	35	36	43	:
Italy (イタリア)	517	522	543	481	484	523
France (フランス)	553	589 (b)	595	595	585 (b)	:
Spain (スペイン)	270	280	344	296	317	323
Germany (until 1990 former territory of the FRG) (ドイツ。1990 年までは旧西ドイツのデータである。)	466	527	477	450	430	397
European Union - 28 countries (欧州連合 28 か国合計。2018年までのデータには英国を含む。)	3 , 679	3,801	3,903	3 , 588	3 , 552	:

Available flags:

b: break in time series(時系列的な不連続がある。)	c confidential	d definition differs, see metadata
e estimated	f forecast	n not significant
p provisional	r revised	s Eurostat estimate
u low reliability	z not applicable	

OUNIT: Incidence rate(発生率:労働者 10 万人当たり)

NACE_R2:Total - all NACE activities(全産業合計。道路交通災害を含み、通勤災害は含まない。)

European Union - 28 countries (2013-2020)	1.78	1.83	1.83	1.69	1.65	:
Germany (until 1990 former territory of the FRG)	1.04	1.15	1.02	0.96	0.89	0.78
Spain	1.88	1.93	2.3	1.92	1.99	1.96
France	2.96	2.7(b)	2.57	2.74	2.64(b)	:
Italy	2.31	2.34	2.42	2.11	2.1	2.25
Netherlands	0.5	0.64(b)	0.5	0.5	0.59	
Poland	1.83	1.75	1.89	1.54	2	1.56
United Kingdom	0.92	0.81	0.83	0.8	0.88	0.78
TIME	2013	2014	2015	2016	2017	2018

Available flags:		
b: break in time series(時系列的な不連続がある。)	c confidential	d definition differs, see metadata
e estimated	f forecast	n not significant
p provisional	r revised	s Eurostat estimate

u low reliability	z not applicable	
<u> </u>	app	